

『開かれた学校づくり』のこれから

コミュニティ・スクールの経験から

福岡県春日市教育委員会

学校教育部長 工藤 一徳

1 『開かれた学校づくり』の進展

第1ステップ：【開かれた教育活動の展開】

地域の教育資源を生かした教育活動の展開

第2ステップ：【開かれた学校経営の推進】

地域住民の意向を反映し、その支援を生かした学校運営・経営の推進

第3ステップ：【開かれたカリキュラムの導入】と【地域基盤形成への発展】

地域に生きる子どもたちの育成を目指した地域進出型、地域資源活用型カリキュラムの導入（市民意識をもった児童生徒の育成）と、それらを通じた「子どもが育つ地域基盤」の形成とまちづくり

2 コミュニティ・スクール ～「開かれた学校づくり」一つの到達点～

- ・ ステイクホルダー（利害関係者）による学校経営
- ・ 法に存在根拠をもち経営の軸を担う学校運営協議会
- ・ 「社会的営みとしての子育て」への展開

3 コミュニティ・スクール 春日の歩み

- ・ 『トライアングル21』の策定
- ・ 学校管理規則の全面改訂
- ・ 学校への権限委譲
- ・ コミュニティ・スクールの導入と展開
- ・ 第2ステップから第3ステップへの過渡期にある春日のコミュニティ・スクール

4 『開かれた学校づくり』推進上の課題

- ・ 学校文化の見直し（閉鎖性の打破と、「学校が」から「学校も」への転換 「生涯学習体系の中に位置付く学校教育」の明確化）
- ・ 教育委員会事務局改革（都道府県教委との重層構造から来る主体性の脆弱性（都道府県教委の出先機関的姿）と都道府県職員の意識をもつ現場教職員との一体感の希薄性による政策形成意欲の不十分性等の打破）

5 「育ちの時間軸」と行政の役割

6 システム化とまちづくり